

F-4 人口移動と食生活の構造的変化 —主食形態を中心として—

厚生省人口研 内野 澄子

1. 人口移動の激化は全国的都市化を促進せしめると共に世帯の生活様式や生活意識に著しい影響を与えている。このような変動期において食慣習や食に対する態度がどのように変化しつつあるかをあきらかにし、また将来変化の動向を把握することが本報告の基礎となっている調査の目的である。

2. 昭和43年度人口問題研究所において行なった“人口の移動性と社会経済的要因との関係に関する調査。では主食形態についても若干の調査を行なった。全国16県から32の都市を選択し、各市の人口集中地区から10調査区をランダムにサンプルし、20歳以上の男子約17,000人について配票調査を行なったものである。

3. 主要調査結果は次の如くである。

1) 米飯摂取傾向は、都市の人口規模と深い関係がみられた。

2) 人口移動経験者と非経験者別にみると、一般に移動経験者において米飯摂取の割合は低い。

3) 5年前の調査と比較するとこの5年間でパン食化傾向は急速に進んだが現在ではほぼ飽和状態に接近しており、3回の食事における主食形態パターンの固定化の傾向がみとめられる。